



～歌志内中学校学校祭～

▲合唱コンクールや学年劇などの気持ちのこもった発表に、父兄たちは大きな拍手を送っていました。(8月29日～同30日 歌志内中学校)

まちの様子 広報 topics

※このコーナーは、市内のでき事をご紹介しているコーナーです。広報紙に掲載した写真を無料で差し上げますので、ご希望の方はご連絡ください。

■連絡先 総務課広報情報グループ (市役所3階 ☎42～3212)



～高齢者スポーツ大会～

▲参加者は4チームに分かれ大声で応援しながらコロコロ競争や輪投げゲームなどの競技を楽しみました。(9月12日 アリーナチロル)

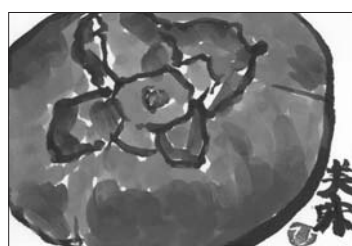


～保育所運動会～

▲子どもたちは玉入れやかけっこ、親子競技などを行って、みんなで楽しい一日を過ごしていました。(8月29日 中村体育館)



「秋桜」
小松 京子



「おいしいね」
川辺 広子

市民の ひろば

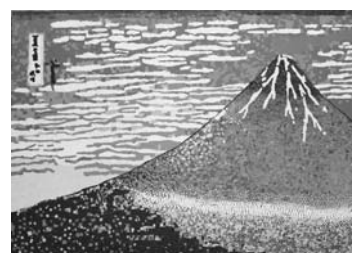
絵手紙



「ターバンを巻いた少女」
歌志内中学校3年生



「マンドリンとギター」
歌志内中学校2年生



「富嶽三十六景・凱風快晴」
歌志内中学校1年生

集団制作



～幼稚園まつり～

▲園児たちは、やきとりやたこやきなど手作りの屋台や、金魚すくいなどの様々なゲームを楽しみました。(9月18日 歌志内幼稚園)



～普通救命講習会～

▲「大切な命は私が守る。」参加した皆さんは真剣に応急手当の方法や人工呼吸法、AEDの使い方を学んでいました。(9月12日 消防本部)



～防火グラウンドゴルフ大会～

▲優勝を目指してスコアを競い合いながらも、ナイスプレーには皆で喜び合い楽しくプレーしました。(9月19日 アリーナチコロ)



～もってけまつり～

▲あいにくの雨模様でしたが、お客さんは傘をさしながら新鮮な野菜や魚介類を買い求めていました。(9月13日 道の駅)

図書館
だより

42～6900

行
事

■移動どうわ会

▼とき 10月9日(金) 15時

▼ところ 神威児童センター

▼内容 本の読み聞かせ、かみしばい、工作

■移動としよかん

▼とき 10月7日(水)

▼ところ

▼歌神94番地(14時30分～)

▼とき 10月15日(木)

▼ところ

▼楽生園(14時30分～)

▼給食センター(15時45分～)

▼市民体育館(16時15分～)

※移動としよかん開催場所を募集しています。詳しくは図書館までお問い合わせください。

読んでみませんか？

『戦場の聖歌(カンタータ)』

(森村誠一 著)

戦時中、満州の酒場で友情を深めた4人の仲間。その後、召集され、生き別れた友と今は亡き友。戦争と人間とを描き続け

『妻と飛んだ特攻兵』

(豊田正義 著)

『やっぱり重曹はスゴイ!』

(佐光紀子ほか 著)

『ムーンリバーズは忘れない』

(はらだみずき 著)

『ベトナムの桜』(平岩弓枝 著)

『砂の王宮』(楡周平 著)

『ひんやりと、甘味』

(阿川佐和子ほか 著)

浅田次郎や重松清、松井今朝子、向田邦子などの作品から41篇を集めた冷たいスイーツエッセイ集です。

戦後、資源不足の日本を救う無限のエネルギーとして、また火力、電力につぐ第三の火として、夢の平和エネルギーとなるはずだった原子力発電。それが何故? 1人の男の生涯を通して原発の誕生から終焉までを追った長編小説。

『ザ・原発所長 上・下』

(黒木亮 著)

戦後、資源不足の日本を救う無限のエネルギーとして、また火力、電力につぐ第三の火として、夢の平和エネルギーとなるはずだった原子力発電。それが何故? 1人の男の生涯を通して原発の誕生から終焉までを追った長編小説。

『ザ・原発所長 上・下』

(黒木亮 著)

戦後、資源不足の日本を救う無限のエネルギーとして、また火力、電力につぐ第三の火として、夢の平和エネルギーとなるはずだった原子力発電。それが何故? 1人の男の生涯を通して原発の誕生から終焉までを追った長編小説。

『ザ・原発所長 上・下』

(黒木亮 著)

戦後、資源不足の日本を救う無限のエネルギーとして、また火力、電力につぐ第三の火として、夢の平和エネルギーとなるはずだった原子力発電。それが何故? 1人の男の生涯を通して原発の誕生から終焉までを追った長編小説。

『ザ・原発所長 上・下』

(黒木亮 著)

て来た著者が、戦後70年目におくる渾身の長編小説。

『バケモノの子』(押田守 作)

9歳の少年・蓮は両親と別れひとりバケモノの世界にまぎれこむ。乱暴者だけど面倒見のよいバケモノの弟子になり、冒険をとおして成長する少年を描いた話題の映画、小説版。

『ザ・原発所長 上・下』

(黒木亮 著)

戦後、資源不足の日本を救う無限のエネルギーとして、また火力、電力につぐ第三の火として、夢の平和エネルギーとなるはずだった原子力発電。それが何故? 1人の男の生涯を通して原発の誕生から終焉までを追った長編小説。

『ザ・原発所長 上・下』

(黒木亮 著)

戦後、資源不足の日本を救う無限のエネルギーとして、また火力、電力につぐ第三の火として、夢の平和エネルギーとなるはずだった原子力発電。それが何故? 1人の男の生涯を通して原発の誕生から終焉までを追った長編小説。

『ザ・原発所長 上・下』

(黒木亮 著)

戦後、資源不足の日本を救う無限のエネルギーとして、また火力、電力につぐ第三の火として、夢の平和エネルギーとなるはずだった原子力発電。それが何故? 1人の男の生涯を通して原発の誕生から終焉までを追った長編小説。

『ザ・原発所長 上・下』

(黒木亮 著)

戦後、資源不足の日本を救う無限のエネルギーとして、また火力、電力につぐ第三の火として、夢の平和エネルギーとなるはずだった原子力発電。それが何故? 1人の男の生涯を通して原発の誕生から終焉までを追った長編小説。

『ザ・原発所長 上・下』

(黒木亮 著)

戦後、資源不足の日本を救う無限のエネルギーとして、また火力、電力につぐ第三の火として、夢の平和エネルギーとなるはずだった原子力発電。それが何故? 1人の男の生涯を通して原発の誕生から終焉までを追った長編小説。

『ザ・原発所長 上・下』

(黒木亮 著)

戦後、資源不足の日本を救う無限のエネルギーとして、また火力、電力につぐ第三の火として、夢の平和エネルギーとなるはずだった原子力発電。それが何故? 1人の男の生涯を通して原発の誕生から終焉までを追った長編小説。

『ザ・原発所長 上・下』

(黒木亮 著)

戦後、資源不足の日本を救う無限のエネルギーとして、また火力、電力につぐ第三の火として、夢の平和エネルギーとなるはずだった原子力発電。それが何故? 1人の男の生涯を通して原発の誕生から終焉までを追った長編小説。

『ザ・原発所長 上・下』

(黒木亮 著)

戦後、資源不足の日本を救う無限のエネルギーとして、また火力、電力につぐ第三の火として、夢の平和エネルギーとなるはずだった原子力発電。それが何故? 1人の男の生涯を通して原発の誕生から終焉までを追った長編小説。

『ザ・原発所長 上・下』

(黒木亮 著)

戦後、資源不足の日本を救う無限のエネルギーとして、また火力、電力につぐ第三の火として、夢の平和エネルギーとなるはずだった原子力発電。それが何故? 1人の男の生涯を通して原発の誕生から終焉までを追った長編小説。

『ザ・原発所長 上・下』

(黒木亮 著)